

小平市議会定例会 代表質問通告書

質問件名 高齢になっても暮らしやすいまちづくりを目指すために

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な内容を項目別に記入してください)

市長は平成 28 年度予算の施政方針で、次のように述べています。

「福祉や健康づくりにおいて、少子化に影響を与えている若い世代の働き方や所得状況の問題について、社会的に弱い立場の人への配慮を常に念頭に置いた取組の推進が必要であること。また今後、加速度的に高齢化が進むことが想定され、高齢者が住み慣れた場所で生きがいのある充実した生活を送れるよう地域包括ケアの構築をすすめていく」と。

まさに地域包括ケアシステムは、誰もが生きがいのある充実した生活を送れるよう、医療・福祉・商工業の機能もあわせ、安心して暮らせるようなまちのあり方を構築することであり、まちづくりそのものであると私たちも考えています。

また、小平は近隣市のなかでも出生率が増加しています。子どものいる世帯に対し出産・子育てしやすい環境の整備をしつつも、若い人たちがいることで関わりが生まれ、高齢者にとっても安心して暮らしやすい地域になり、何より生き生きと暮らし続ける力になると考えます。

私たち会派では、将来を見据え、市民の自治を目指し、人と環境優先の考えのもと、持続可能な社会を地域からつくっていくことを発信しています。いろんな人がつながりあい、暮らしの中でお互いに受けとめ合いながら生きていく社会を市民とともに築いていくことが大切です。来年度は、市長任期の最終年度であり集大成の年として覚悟をもって積極的にかつ果敢に取り組むと施政方針で述べています。都心とは違う小平の良さや特徴を活かし、独自の創意工夫をもってまちづくりをすすめるため、以下質問します。

1. 高齢者にとっては、介護事業を充実させるだけでなく、コミュニティの再生や住まい、医療と介護の連携、公共交通など福祉以外の関係課と市民との具体的な連携が重要になります。高齢者になっても暮らしやすい街づくりに向けて、市として取り組むことは何かを伺います。
2. 市長が基本に据える「公開」と「参加」、「協働」と「自治」による活気に満ちたまちの実現をめざすためには市民が主役となって取り組むしくみが必要です。市民の活動を応援していく姿勢を示す、そのことが暮らしやすいまちづくりにつながると考えますが、ご認識を伺います。
3. 高齢者がいきいきと暮らすためには、子どもや若者が安心して居られて活躍できる場が保障され、いっしょにまちづくりに参加していく体制づくりが必要と考えます。ご見解を伺います。
4. 高齢になってもハンディがあっても外出しやすいまちになったらいいと誰もが思います。駅前の道路整備や広場整備、移動しやすい交通網をつくることについて、任期の最終年度に取り組むことは何か、伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則題 57 条第 2 項により通告します。

2016 年（平成 28 年）2 月 12 日 小平市議会議長殿 会派生活者ネットワーク 平野ひろみ

受付番号【 】－（ ／ 2）

整理番号（通しNo.）……（ ）